

読者・受験者 3 名の方から 4 件の問い合わせ・ご指摘がありました。補足し、ご指摘・質問にお答えいたします。 中川 正之

### 1. 244 頁

（“普通话”の表記には）“汉（漢）”のように簡体字という略字体を用いる。正確には繁体字を簡略化したという意味で“简化字”というが、現在では“繁体字”に対して“簡体字”と言われることが多い。

### 2. 252 頁

#### 中国語の音声

普通话は、有声（濁音）：無声（清音）の対立を利用せず、気音が強くもれるか否か、つまり有気：無気の対立を利用する。ただ、中国語の正書法であるピンインでは、多くの言語では有声をあらわす b,d,g,z など無気音を、無声をあらわす p,t,k,c などで有気音をあらわすと定められています。

中国語にもかつては濁音が存在しており、その濁音が消える中で有声（濁音）：無声（清音）の対立が音の高低（声調）に変化していったと考えられます。生理的に有声音 b,d,g,z は低く発音され、無声音は高く発音される傾向にあります（日本語で「ボ」と「ポ」を発音してみると前者が低く、後者が高くなる）。有声が消滅すると、「ボ」と「ポ」の違いは、低い調子と高い調子のみが両者を区別することになります。その外にも音節末尾のつまる音などが声調に影響を及ぼすかたちで消滅していったと考えられます。

### 3. 244 頁、262 頁

著名なトルコ語研究者から「日本語は膠着語である」とすることに疑義が出ました。トルコ語に比べると「膠着性が低い」ということだと思います。世界の言語を 3 種類か 4 種類に分類する場合、典型的なものは別として、どこで線を引き、どのグループに属するのかに対して様々な議論がでます。英語のように屈折語とされながらも you your you のように主格と対格が同じになり孤立語に近づくといった現象がいろいろあります。

しかし、世界の言語を 3 ないし 4 のグループに分けるとしたら、英語は屈折語、日本語が膠着語、中国語は孤立語とするのも一つの分類法であると考えられます。

中国語を孤立語とすることへの意義はないと思われませんが、日本語が膠着語であるとするのは、「は、が、を」のように多くの言語では語順や語形変化で表されているものが、助詞を膠（にかわ）で接着させるように着けていることや「そう思うこともないわけではない」のように動詞のあとに助動詞などをつぎつぎに付着させていく現象を考えれば、日本語は膠着語であるとする説も成り立つと考えます。

また、中国語は表意文字、英語は表音文字という従来からの言い方を引きずっているためか、「漢字は音を表さない」とほのめかしていることにも疑義が出されました。本辞典では、あえて表意文字をとらず表語文字という考え方をとりました。また、たとえば「可」は「口」を曲げるという発音方法を表すといった指摘があることも付け加えておきたいと思います。